

# 皮膚科学

## 1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	1人
病院准教授	1人
講師(うち病院籍)	1人 (1人)
病院講師	1人
助教(うち病院籍)	3人 (2人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	3人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	5人 (0人)
研究生	2人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	7人
合 計	25人

## 1-2 教員の異動状況

戸倉 新樹 (教授) (H23.1.1 ~ 現職)
平川 聡史 (准教授) (H23.4.1 ~ H23.9.30 講師; H23.10.1 ~ 現職)
伊藤 泰介 (病院准教授) (H9.9.1 ~ H18.3.31 助手; H18.4.1 ~ H27.1.31 講師; H27.2.1 ~ 現職)
藤山 俊晴 (講師) (H20.11.1 ~ H21.2.28 医員; H21.3.1 ~ H27.4.30 助教; H27.5.1 ~ 現職)
島内 隆寿 (病院講師) (H28.4.16 ~ H28.12.31 助教; H29.1.1 ~ 現職)
池谷 茂樹 (助教) (H24.9.1 ~ H29.3.31 退職)
龍野 一樹 (助教) (H23.9.1 ~ 現職)
青島 正浩 (助教) (H25.4.1 ~ 現職)

## 2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1) 研究・開発等のテーマ名 物質Xノックアウトマウス
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略 表皮の分化に関与していると目される物質Xがある。予備実験にてアトピー性皮膚炎患者の皮膚では物質Xの発現が低下しており、アトピー性皮膚炎の病態に関与していると考えた。我々はその物質Xの遺伝子を改変したノックアウトマウスを樹立し、皮膚のバリア能を検査している。
2	(1) 研究・開発等のテーマ名 リンパ腫の研究
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略 成人T細胞白血病/リンパ腫(ATLL)はHTLV-1ウイルス感染によりCD4陽性細胞が腫瘍化して生じる稀な血液疾患である。およそ50%の症例に皮膚症状を伴い、皮膚病変を伴うものは予後が悪いことが以前より指摘されている。腫瘍化したCD4陽性T細胞は様々な形で宿主免疫の変調を誘導し、宿主からの免疫機構を回避するメカニズムを有していると考えられている。近年、腫瘍細胞の表面にCell adhesion molecule 1(CADM1)という分子が高発現していることが判明した。一方で、CADM1の受容体であるCRTAMは活性化したCD8陽性細胞などに発現しており、CADM1と結合することでさらに活性化し、CADM1発現細胞の排除に働くことがわかっている。ATLL腫瘍細胞がCADM1を強く発現しながらも、CRTAMを発現している宿主CD8陽性細胞からどのように逃れているのかにつき着目し、現在研究を進めている。
3	(1) 研究・開発等のテーマ名 表皮角化細胞の分化およびバリア機能因子としてのsuprabasin
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略 近年、アトピー性皮膚炎(AD)患者における皮膚角層は、バリア構成タンパク質、プロテアーゼとそのインヒビターなどの異常があり、バリア機能が破綻していることが明らかとなったが、その全貌は未だ明らかではない。 我々の講座では、角層をテープストリッピングにより採取し、蛋白質を抽出後、プロテオーム解析を行い、角層に含まれる440種類の蛋白質を同定、定量する手法を確立した。そして、健常人と比較しAD患者にて発現の有意に低下する複数の蛋白質を同定した。その一つにsuprabasinがある。Suprabasinは、2002年に初めて報告されたケラチノサイトに発現する蛋白質であるが、その機能はほとんど不明である。Suprabasinが角層バリア機能にどの程度関与するのか、フィラグリン等の他の角化関連蛋白やZO-1等のバリア関連蛋白の発現にどのような影響を与えるかを明らかにすることが、本研究の目的である。
4	(1) 研究・開発等のテーマ名 樹状細胞を介したHTLV-1伝播が与える免疫学的影響の解明
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略 ヒトT細胞白血病ウイルス1型(Human T-cell Leukemia Virus Type 1: HTLV-1)に感染したCD4+ T細胞は、ウイルス学的シナプスあるいはバイオフィルム様細胞外ウイルス集合体と呼ばれる細胞間接触を介して、ウイルス粒子を次なる標的細胞へと伝播させる。HTLV-1感染は主に母乳による垂直感染あるいは性行為を介した水平感染による。したがって、粘膜組織に存在する樹状細胞(dendritic cell; DC)あるいはランゲルハンス細胞(Langerhans cell; LC)はHTLV-1にとって、最初の標的細胞と考えられる。しかし、DC/LCを介したウイルス伝播のメカニズム、さらには宿主免疫系にもたらす影響については分かっていない。本研究の目的は、細胞間接触を介したDC/LCへのHTLV-1伝播がこれら細胞にどのような免疫学的な異常を引き起こすかを解明することである。
	(3) 前年度までの状況 我々は、in vitroの系で、HTLV-1感染細胞株がヒト単球由来DC(monocyte derived dendritic cell; MDDC)へ細胞間接触を介してウイルスを伝播させ、さらにウイルス結合MDDCは自己CD4+ T細胞へと細胞間接触を介してウイルスを再伝播させることを確認した。つまり、本来、抗ウイルス活性ならびに抗原提示細胞としての役割を果たすべきDCは、逆にHTLV-1感染の媒介役としてhijackされていると予測できる。さらに、細胞間接触を介するHTLV-1伝播はLPS誘導性のDC成熟化ならびにサイトカイン産性能を抑制することも見いだした。
	(4) 当該年度内の進捗 今年度は、ATLL患者、HAM/TSP患者、HTLV-1キャリア由来のHTLV-1感染CD4+ T細胞をallogeneic MDDCと共培養させ、HTLV-1のMDDCへの伝播を確認することができた。また、ATLL患者由来CD4+ T細胞では、LPS誘導性のDC成熟化に変調を来すことも確認した。

	<p>(5)翌年度の方針と予想</p> <p>細胞間接触を介するHTLV-1のDCへの伝播をもたらすDCの機能不全に関するメカニズムを明らかにする。現時点で、我々はHTLV-1感染細胞、特にHTLV-1感染細胞株と患者由来ATLL腫瘍細胞の細胞表面上に発現しているGalectin-3に着目している。Galectin-3はバイオフィルム様細胞外ウイルス集合体の構成成分の一つであり、細胞間接触により、DCへ結合することで、ウイルス伝播のみならず、DCの機能不全にも関与していると推測している。</p>
5	<p>(1)研究・開発等のテーマ名</p> <p>抗真菌剤ポリコナゾールによる光線性皮膚癌発症・促進機序の解明</p>
	<p>(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略</p> <p>本研究は、抗真菌剤ポリコナゾールによる皮膚癌発生について、光感受性物質としての活性酸素(ROS)産生と芳香族炭化水素受容体(AhR)を介したCOX-2転写活性から解明することを目的とする。深在性真菌症に高い有効性を有するトリアゾール系抗真菌剤ポリコナゾール(VRCZ)の副作用として、露光部の皮膚癌発症が知られている。VRCZの肝代謝物であるN-oxideがUVB照射にてUVA領域に吸収波長を有する光分解物となりUVA照射にて活性酸素が生じること、またVRCZが芳香族炭化水素受容体(AhR; aryl hydrocarbone receptor)のリガンドであり、AhRを介したCOX-2の転写活性を有することを見出した。これらの知見からVRCZが皮膚癌発生に関わる機序を総合的に解明し、優れた抗真菌剤であるVRCZを安全に使用できる予防法を提示したい。</p>
6	<p>(1)研究・開発等のテーマ名</p> <p>アトピー性皮膚炎でのバリア制御因子としてのgalectin-7</p>
	<p>(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略</p> <p>アトピー性皮膚炎患者(AD)においてテープストリッピング法を用いて、角層をmass spectrometerにて解析を行い、400種類以上の蛋白質を同定した(Sakabe J, Tokura Y, et al. J Allergy Clin Immunol 134: 957, 2014)。この研究成果の中にAD患者角層中にgalectin-7が増加していたという知見が含まれており、galectin-7のADでの更なる動態を調べていくこととなった。</p>
7	<p>(1)研究・開発等のテーマ名</p> <p>帯状疱疹におけるPlasmablastの変動とその役割</p>
	<p>(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略</p> <p> Deng熱を初めとしたウイルス感染症の急性期に、患者末梢血中でPlasmablastが増加することが知られている。しかし、皮膚科領域で一般的なウイルス感染症である帯状疱疹では、これまでにPlasmablastの変動を検討した報告はない。そこで我々は、当院及び関連施設を訪れた患者から末梢血を採取し、PlasmablastおよびT細胞・B細胞サブセットの数を時間経過とともに観察した。また同時に、VZV特異抗体価や血清サイトカイン濃度も併せて測定し、Plasmablastの機能や細胞数の変動をもたらす機序についても検討した。</p>
8	<p>(1)研究・開発等のテーマ名</p> <p>敏感肌とアトピー性皮膚炎</p>
	<p>(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略</p> <p>敏感肌とは、様々な環境因子に対し、過敏となった皮膚の状態である。敏感肌の評価法としては乳酸ステインギング試験(痛み、ほてり、痒み、むずむず感の4つの感覚を調べる。)が広く用いられている。敏感肌と、アトピー性皮膚炎でみられるようなバリア機能障害の関係が推測されてはいるが、敏感肌の病勢マーカーについては、はっきりしたことはわかっていない。また、アトピー性皮膚炎にはバリア機能障害を伴う外因性アトピーと、バリア機能障害が軽微な内因性アトピーが存在する。今回、我々は、アトピー性皮膚炎の病勢マーカーやバリア機能を調べ、ステインギング試験により判明した敏感肌の程度との相関を調べた。</p>

### 3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	14編 ( 2編 )
そのインパクトファクターの合計	46.443
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	1編
そのインパクトファクターの合計	4.317
(3)総説数(うち和文のもの)	18編 ( 16編 )
そのインパクトファクターの合計	5.799
(4)著書数(うち和文のもの)	14編 ( 13編 )
(5)症例報告数(うち和文のもの)	12編 ( 6編 )
そのインパクトファクターの合計	11.720

#### (1) 原著論文

##### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Fujiyama T, Ito T, Umavahara T, Ikeva S, Tatsuno K, Funakoshi A, Hashizume H, Tokura Y: Topical application of a vitamin D3 analogue and corticosteroid to psoriasis plaques depresses skin infiltration of TH17 cells and their ex vivo expansion. J Allergy Clin Immunol 138 : 517-528.e5 , 2016	12.485
2.	Suzuki T, Tatsuno K, Ito T, Sakabe J, Funakoshi A, Tokura Y: Distinctive downmodulation of plasmacytoid dendritic cell functions by vitamin D3 analogue calcipotriol. J Dermatol Sci 84 : 71-79 , 2016	3.739
3.	Suzuki T, Tokura Y, Ito T: Similarities of dermoscopic findings in alopecia areata between human and C3H/HeJ mouse. J Dermatol Sci 83 : 154-157 , 2016	3.739
4.	Tatsuno K, Fujiyama T, Matsuoka H, Shimauchi T, Ito T, Tokura Y: Clinical categories of exaggerated skin reactions to mosquito bites and their pathophysiology. J Dermatol Sci 82 : 145-152 , 2016	3.739
5.	栗山幸子, 青島正浩, 戸倉新樹: 特発性後天性全身性無汗症/減汗性コリン性蕁麻疹7例における減汗状態おびステロイドパルス療法による発汗回復の部位別検討. 日本皮膚科学会雑誌 126: 1263-1271 , 2016	0.000
6.	伊藤泰介, 戸倉新樹, 前島秀樹, 天羽康之, 乾重樹, 板見智: 女性における男性型脱毛症患者に対する女性ホルモン含有育毛剤の使用試験. 皮膚の科学 15: 502-512 , 2016	0.000

論文数(A)小計 6 うち和文 2 IF小計 23.702

##### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Fukuie T, Hirakawa S, Narita M, Nomura I, Matsumoto K, Tokura Y, Ohya Y: Potential preventive effects of proactive therapy on sensitization in moderate to severe childhood atopic dermatitis: A randomized, investigator-blinded, controlled study. J Dermatol 43 : 1283-1292 , 2016	1.577

論文数(B)小計 1 うち和文 0 IF小計 1.577

##### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Kamiya K, Aoyama Y, Wakashima C, Kudo T, Nakajima K, Sano S, Ishii N, Teye K, Hashimoto T, Iwatsuki K, Tokura Y: Atypical pemphigus with immunoglobulin G autoantibodies against desmoglein 3 and desmocollin 3. J Dermatol 43 : 429-431 , 2016	1.577
2.	Lovato P, Norsgaad H, Tokura Y, Røpke MA: Calcipotriol and betamethasone dipropionate exert additive inhibitory effects on the cytokine expression of inflammatory dendritic cell-Th17 cell axis in psoriasis. J Dermatol Sci 81 : 153-164 , 2016	3.739
3.	Tsujita-Inoue K, Hirota M, Atobe T, Ashikaga T, Tokura Y, Kouzuki H: Development of novel in vitro photoallergenicity assays focused on the Keap1-Nrf2-ARE pathway. J Appl Toxicol 36: 956-968 , 2016	2.722
4.	Yuki T, Tobiishi M, Kusaka-Kikushima A, Ota Y, Tokura Y: Impaired Tight Junctions in Atopic Dermatitis Skin and in a Skin-Equivalent Model Treated with Interleukin-17. PLoS One 11: e0161759, 2016	3.057
5.	Czubala MA, Finsterbusch K, Ivory MO, Mitchell JP, Ahmed Z, Shimauchi T, Karoo RO, Coulman SA, Gateley C, Birchall JC, Blanchet FP, Piguat V: TGF-β Induces a SAMHD1-Independent Post-Entry Restriction to HIV-1 Infection of Human Epithelial Langerhans Cells. J Invest Dermatol 136 : 1981-1989 , 2016	6.915
6.	Fujiwara M, Suzuki T, Takiguchi T, Fukamizu H, Tokura Y: Evaluation of positron emission tomography imaging to detect lymph node metastases in patients with high-risk cutaneous squamous cell carcinoma. J Dermatol 43 : 1314-1320 , 2016	1.577
7.	Hamada T, Sugaya M, Tokura Y, Ohtsuka M, Tsuboi R, Nagatani T, Tani M, Setoyama M, Matsushita S, Kawai K, Yonekura K, Yoshida T, Saida T, Iwatsuki K: Phase I/II study of the oral retinoid X receptor agonist bexarotene in Japanese patients with cutaneous T-cell lymphomas. J Dermatol 44 : 135-142 , 2017	1.577

論文数(C)小計 7 うち和文 0 IF小計 21.164

## (2-1)論文形式のプロシーディングズ

### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

論文形式のプロシーディングズ数(A)小計 0 IF小計 0.000

### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文形式のプロシーディングズ数(B)小計 0 IF小計 0.000

### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

論文形式のプロシーディングズ数(C)小計 0 IF小計 0.000

## (2-2)レター

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Tokura Y: Filaggrin deficiency and T-helper 17 development. Br J Dermatol 175: 669-670, 2016	4.317
レター数小計 <u>1</u>		IF小計 <u>4.317</u>

## (3)総説

### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Ito T, Fujiyama T, Tokura Y: Th1 Chemokine CXCL10 and Alopecia Areata: The Possible Target for the Treatment of Alopecia Areata. J Clin Cell Immunol 7: open access journal, 2016	2.060
2.	伊藤泰介: 免疫からみた円形脱毛症の病態. J Environ Dermatol Cutan Allergol 10: 97-105, 2016	0.000
3.	戸倉新樹: 金属アレルギーと汗. Monthly Book Derma 244: 28-32, 2016	0.000
4.	伊藤泰介: デュタステリド(ザガーロ®). 皮膚科の臨床. 58(6): 925-932, 2016	0.000
5.	戸倉新樹: 炎症性にきびの発症機序と治療標的. ファーマナビゲーター にきび治療薬編: 100-113, 2016	0.000
6.	糟谷啓, 戸倉新樹, 橋爪秀夫: 免疫抑制剤とリンパ腫. 日本皮膚科学会雑誌 126: 1433-1438, 2016	0.000
7.	戸倉新樹: IgG4関連皮膚疾患. 日本皮膚科学会雑誌 126: 1445-1451, 2016	0.000
8.	戸倉新樹: 減汗性コリン性蕁麻疹の診断治療のコツ. 日本皮膚科学会雑誌 126: 1687-1692, 2016	0.000
9.	戸倉新樹: アトピー性皮膚炎患者から非侵襲的に採取した角層のタンパク質網羅的解析. 小児科診療 79: 1315-1318, 2016	0.000
10.	戸倉新樹: 痒疹: 便利だが曖昧な診断名と治療抵抗性. マルホ皮膚科セミナー「ラジオNIKKEI」放送内容集 244: 8-11, 2016	0.000
11.	青島正浩: 汗のオミックス. Fluid Management Renaissance 6: 62-66, 2016	0.000
12.	島内隆寿: HTLV-1伝播機序と樹状細胞. 細胞 48: 17-20, 2016	
13.	伊藤泰介: こどもとおとなが期待するこれからの脱毛症診療. Monthly Book Derma 252: 65-73, 2017	0.000
14.	戸倉新樹, 藤山俊晴: 自己免疫疾患としての尋常性白斑. Visual Dermatology 16: 150-153, 2017	0.000
15.	戸倉新樹: アトピー性皮膚炎のフェノタイプ. アレルギー 66: 14-22, 2017	0.000
16.	戸倉新樹: 金属炎症・アレルギーの基礎と臨床. 炎症と免疫 25: 98-103, 2017	0.000
総説数(A)小計 <u>16</u> うち和文 <u>15</u> IF小計 <u>2.060</u>		

### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	竹下明裕, 藤山俊晴: 化学療法副作用・合併症対策/非血液毒性(嘔気・嘔吐、抹消神経障害、皮疹など). 日本臨床 74: 305-312, 2016	0.000
総説数(B)小計 <u>1</u> うち和文 <u>1</u> IF小計 <u>0.000</u>		

### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Onoue S, Seto Y, Sato H, Nishida H, Hirota M, Ashikaga T, Api AM, Basketter D, Tokura Y: Chemical photoallergy: photobiochemical mechanisms, classification, and risk assessments. J Dermatol Sci 85: 4-11, 2017	3.739
総説数(C)小計 <u>1</u> うち和文 <u>0</u> IF小計 <u>3.739</u>		

## (4)著書

### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	Tokura Y: New Etiology of Cholinergic Urticaria. Curr Probl Dermatol [Perspiration Research] / Karger, 51, pp94-100 (7頁), 2016	
2.	戸倉新樹: 皮膚科研修で学ぶべきこと. 皮膚科研修ノート. 診断と治療社, pp6-10(5頁), 2016	

3.	伊藤泰介: 円形脱毛症. 皮膚科研修ノート. 診断と治療社 : pp472-473(2頁), 2016	
4.	伊藤泰介: 脱毛・多毛. 内科臨床誌メディチーナ 53: pp107-112(5頁), 2016	
5.	戸倉新樹(分担執筆): 第3章職業性皮膚疾患. 職業性アレルギー疾患診療ガイドライン2016. 協和企画 : pp 76-121(46頁), 2016	
6.	青島正浩: がん患者に対するアピアランスケアの手引き. 2016年版分子標的治療. 金原出版 : pp 96-98(3頁), 2016	
7.	戸倉新樹: 痒疹. マイスターから学ぶ皮膚科治療薬の服薬指導術. メディカルレビュー社 : pp330-333(4頁), 2016	
8.	戸倉新樹: 外因性と内因性アトピー性皮膚炎—臨床的・二大分別法— Extrinsic and intrinsic atopic dermatitis—Clinically divided two types. 別冊・医学のあゆみ アトピー性皮膚炎 UPDATE. 医歯薬出版 : pp30-34(4頁), 2016	
9.	戸倉新樹: 皮膚科疾患 最近の動向. 今日の治療指針2017年版(Volume59)／私はこう治療している. 医学書院 59 : pp1170-1172(3頁), 2017	
10.	伊藤泰介: 脱毛症-特に円形脱毛症. 今日の治療指針2017年版(Volume59)／私はこう治療している. 医学書院(東京) 59 : pp1230-1231(2頁), 2017	
11.	糟谷啓: 汗疱、あせも、わきが、多汗症. 今日の治療指針2017年版(Volume59)／私はこう治療している. 医学書院 59 : pp1227-1228(2頁), 2017	
12.	戸倉新樹: 8 薬疹／1. 薬疹. 皮膚疾患最新の治療2017-2018. 南江堂 : pp99-101(3頁), 2017	
13.	伊藤泰介: 19 皮膚付属器疾患／8 トリコチロミア. 皮膚疾患最新の治療2017-2018. 南江堂: p255(1頁), 2017	

著書数(A)小計 13 うち和文 12

**B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)**

著書数(B)小計 0 うち和文 0

**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの**

	著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1.	織茂弘志, 戸倉新樹: 感覚器系／13. 皮膚科用薬. 治療薬ハンドブック2017 薬剤選択と処方のポイント. じほう : pp259-264(5頁), 2017	

著書数(C)小計 1 うち和文 1

**(5) 症例報告**

**A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Nakazawa S, Mori T, Ito T, Tokura Y: Remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting oedema syndrome with oedematous skin histopathologically characterized by granulomatous change. Br J Dermatol 174 : 1420-1422, 2016	4.317
2.	馬屋原孝恒, 戸倉新樹: ランゲルハンス細胞組織球症の皮疹を捉える. 小児内科 48: 520-523, 2016	0.000
3.	影山玲子, 糟谷啓, 池谷茂樹, 藤山俊晴, 戸倉新樹: 皮膚筋炎におけるFDG-PETによる筋炎の活動性評価 - 筋症状重症例と軽症例の比較-. 臨床皮膚科 70 : 417-421, 2016	0.000
4.	中澤慎介, 森達吉: 潰瘍性大腸炎に合併し、皮下腫瘍を呈した壊疽性膿皮症の1例. 臨床皮膚科 70 : 632-636, 2016	0.000
5.	馬屋原孝恒, 橋爪秀夫, 橋充弘, 寺井勉, 戸倉新樹: 高齢者に生じ神経過形成を示したcoccygeal padの1例. 臨床皮膚科 70 : 871-874, 2016	0.000

症例報告数(A)小計 5 うち和文 4 IF小計 4.317

**B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)**

症例報告数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Kamiya K, Nishio E, Horio A, Tokura Y: Unusual clinical manifestations of rubella in the elderly. Int J Dermatol 55 : e371-372, 2016	1.415
2.	Kamiya K, Aoyama Y, Nishio E, Horio A, Tokura Y: Management of erythematous skin lesions in bullous pemphigoid associated with atopic dermatitis. J Dermatol 43: 1102-1103, 2016	1.577
3.	Kamiya K, Nishio E, Horio A, Shibata H, Tokura Y: Spindle cell hemangioma in an elderly patient: Uncommon benign vascular neoplasm. 1.577 J Dermatol 43 (9) : 1108-1109, 2016	1.577
4.	Nakazato Y, Tamura N, Ikeda K, Yamamoto T, Tokura Y: A case of idiopathic pure sudomotor failure associated with prolonged high levels of serum carcinoembryonic antigen. Clin Auton Res 26 : 451-453, 2016	1.257
5.	Kurihara K, Tsushima T, Tokura Y: Idiopathic segmental anhidrosis associated with varicella. J Dermatol 44 : 211-212, 2017	1.577

6.	笹田久美子, 秦まき, 戸倉新樹: 乳児に発症した再発性環状紅斑様乾癬の1例. 臨床皮膚科 70 (6) : 401-405, 2016	0.000
7.	星野友美, 小粥雅明, 戸倉新樹: 初回出現エピソードの皮疹に対しPUVA療法が奏功したリンパ腫様丘疹症の1例 臨床皮膚科 71 (1) : 65-69 2017	0.000

症例報告数(C)小計 7 うち和文 2 IF小計 7.403

#### 4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	1 件

(特許登録)	
発明者: 戸倉新樹、平川聡史 (代表者: 平川聡史)	
1.	発明の名称: 血管透過性亢進抑制作用の評価方法
	登録番号: 第6057333号
	登録日: 2016年12月16日

#### 4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	8 件	1,200 万円
(2) 厚生労働科学研究費	1 件	20 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	6 件	648 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6) 財団助成金	0 件	0 万円
(7) 受託研究または共同研究	8 件	1,964 万円
(8) 奨学寄附金	20 件	1,189 万円

##### (1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	戸倉新樹(分担), 挑戦的萌芽研究, アレルギー性疾患の先制医療を目指して: アトピー性皮膚炎における鼻腔常在菌叢の意義, 平成26年度~平成28年度, (研究代表者)臨床検査医学 前川真人	10万円
2.	伊藤泰介(代表), 基盤研究(C), 円形脱毛症におけるpDCを中心とした新たな病態メカニズムの解明, 平成26年度~平成28年度	130万円
3.	藤山俊晴(代表), 基盤研究(C), ex vivo培養増殖で得た皮膚浸潤T細胞による薬疹の原因薬剤同定法の確立, 平成28年度~平成30年度	160万円
4.	池谷茂樹(代表), 若手研究(B), 抗真菌剤ポリコナゾールによる芳香族炭化水素受容体を介した皮膚癌進展機序の解明, 平成28年度~平成29年度	160万円
5.	龍野一樹(代表), 若手研究(B), 水疱性類天疱瘡における水疱内好塩基球とTSLPとの相互作用, 平成28年度~平成29年度	140万円
6.	青島正浩(代表), 若手研究(B), 表皮角化細胞の分化およびバリア機能因子としてのsuprabasin, 平成28年度~平成29年度	150万円
7.	平川聡史(代表), 基盤研究(B), 薬剤送達に対するリンパ管の役割: 転写因子FOXC2に着目したリンパ管機能解析, 平成26年度~平成29年度	320万円
8.	平川聡史(代表), 挑戦的萌芽研究, ナノスーツ法を用いた癌研究: 電子顕微鏡で生きたまま細胞を観察する新しい技術, 平成27年度~平成29年度	130万円

##### (2) 厚生労働科学研究費

1.	平川聡史(分担), 難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究, 平成26年度~平成28年度, (研究代表者)聖マリアンナ医科大学病院 教授 三村秀文	20万円
----	--	------

##### (3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成

1.	戸倉新樹(分担), 表皮を標的としたアトピー性皮膚炎の治療の最適化を目指す新規薬剤の開発, 平成26年度~平成28年度, (研究代表者)京都大学 教授 梶島健治	175万円
----	--	-------

2.	戸倉新樹(分担), 臨床試験、発症ハイリスクコホート、ゲノム解析を統合したアプローチによるATL標準治療法の開発, 平成26年度～平成28年度,(研究代表者)国立がん研究センター 科長 塚崎邦弘	100万円
3.	戸倉新樹(分担), アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいた革新的な核酸医薬外用療法の医師指導型臨床研究, 平成27年度～平成29年度,(研究代表者)東京医科歯科大学 教授 横関博雄	38万円
4.	戸倉新樹(分担), 浜松医科大学附属病院における乳幼児アトピー性皮膚炎の診断・アウトカム評価(アレルギーマーチを阻止する乳児アトピー性皮膚炎早期介入研究), 平成28年度～平成30年度,(研究代表者)国立成育医療研究センター 副所長 斎藤博久	50万円
5.	平川聡史(分担), 先天性リンパ管疾患の診療指針作成及び病理・細胞生物学的知見の臨床応用へ向けた研究, 平成26年度～平成31年度,(研究代表者)慶應義塾大学 教授 黒田達夫	185万円
6.	平川聡史(分担), 難治性リンパ管異常に対するシロリムス療法確立のための研究(難治性リンパ管異常に対するシロリムス療法確立のための研究), 平成28年度～平成31年度,(研究代表者)岐阜大学 併任講師 小関道夫	100万円

### (7) 受託研究または共同研究

1.	(受託研究) 戸倉新樹, ノバルティスファーマ株式会社, 尋常性乾癬患者においてコセンティクス(セクキヌマブ)投与がもたらす皮膚浸潤T細胞分画と末梢血バイオマーカーの変化についての研究, 平成28年度～平成30年度	432万円
2.	(受託研究) 戸倉新樹, レオファーマ株式会社, 尋常性乾癬における皮膚浸潤Th17細胞に対するビタミンD3アナログ外用とステロイド外用の相乗効果の検討, 平成28年度	245万円
3.	(共同研究) 戸倉新樹, Cutaneous T cell markers predicting persistent deterioration or long-term remission of plaque psoriasis (尋常性乾癬の持続的悪化または長期軽快を予測する皮膚T細胞マーカーの研究), 日本イーライリリー株式会社, 平成28年度～平成29年度	770万円
4.	(共同研究) 戸倉新樹, 感覚敏感者およびアトピー性皮膚炎患者と健常者の皮膚におけるカルボキシルエステラーゼ、trpチャンネル発現の解析、比較検討, 花王株式会社, 平成27年度～平成28年度	400万円
5.	(共同研究) 平川聡史, マイクロニードルを用いた定量的経皮免疫に関する研究, ASTI株式会社, 平成26年度～平成28年度	25万円
6.	(共同研究) 平川聡史, 定量的位相顕微鏡を用いた培養細胞の形態学的測定, 中央研究所, 平成27年度～平成28年度	45万円
7.	(共同研究) 平川聡史, 上皮・間葉系細胞内cAMP生成の光による動態制御と創薬支援分野への応用に向けたモデル実験系の樹立, 中央研究所, 平成27年度～平成28年度	45万円

## 7 学会活動

	(1)国際学会	(2)国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	5 件	3 件
2) シンポジウム発表数	4 件	15 件
3) 学会座長回数	7 件	16 件
4) 学会開催回数	1 件	8 件
5) 学会役員等回数	3 件	16 件
6) 一般演題発表数	19 件	

### (1) 国際学会等開催・参加

#### 1) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1.	Tokura Y: Psoriasis and Th17 cells. A special seminar at the Diamantena Institute. St Lucia, Queensland, Australia. 2016年8月.
2.	Tokura Y: New entities in dermatology. Asian Dermatological Congress 2016. Mumbai, India. 2016年10月.
3.	Tokura Y: Photocontact dermatitis and leukoderma caused by cosmetic ingredients. 42nd Annual Meeting of the TDA & 8th Annual Meeting of ASPCR (Asian Society for Pigment Cell Research). Kaohsiung Taiwan. 2016年11月.
4.	Tokura Y: A new paradigm of psoriasis treatment. Joint Meeting of the ICDRG (International Contact Dermatitis Research Group) and 42nd DST (Dermatological Society of Thailand) Annual Meeting. Bangkok, Thailand. 2017年3月.
5.	Tokura Y: Management of atopic dermatitis : expert's perspective. Joint Meeting of the ICDRG (International Contact Dermatitis Research Group) and 42nd DST (Dermatological Society of Thailand) Annual Meeting. Bangkok, Thailand. 2017年3月.

#### 2) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1.	Tokura Y: Assessments of photoallergenicity of chemicals. RIFM Expert Panel for Fragrance Safety Meeting. Woodcliff Lake, NJ, USA. 2016年9月.
----	---



2. Tokura Y: Role of IL-23/IL-17 axis in host defense and psoriasis. 42nd Annual Meeting of the TDA & 8th Annual Meeting of ASPCR (Asian Society for Pigment Cell Research). Kaohsiung Taiwan. 2016年11月.
3. Tokura Y: Th17-related pathogenesis and biologic therapies in psoriasis. The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. Sendai, Japan. 2016年12月.
4. Tatsuno K, Tokura Y: How to communicate with Japanese patients. Asia-Pacific Combined Dermatology Research Conference 2016. Australia 2016年8月

### 3) 国際学会・会議等での座長

1. Tokura Y, Oakley A: Asia-Pacific Combined Dermatology Research Conference 2016. Noosa, Queensland, Australia 2016年8月
2. Tokura Y: The 12th Meeting of the German-Japanese Society of Dermatology. Karuizawa, Japan 2016年10月
3. Malkani R, Tokura Y, Torsekar: Asian Dermatological Congress 2016. Mumbai, India 2016年10月
4. Lei T, Son S W, Tokura Y: The 4th Eastern Asia Dermatology Congress. Maihama, Japan 2016年11月
5. Amagai M, Sato S, Tokura Y: The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. Sendai, Japan 2016年12月
6. Tokura Y, Kabashima K: The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. Sendai, Japan 2016年12月
7. Tokura Y, Hasegawa M: The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. Sendai, Japan 2016年12月

### 4) 国際学会・会議等の開催

1. 戸倉新樹: 会頭、Asia-Pacific Combined Dermatology Research Conference 2016、Noosa, Queensland, Australia、2016年8月、400名

### 5) 役職についている国際学会名とその役割

1. 戸倉新樹: International Society for Cutaneous Lymphomas (ISCL) Board member
2. 戸倉新樹: International League Dermatological Societies (ILDS) ICD-11 専門委員
3. 伊藤泰介: World Congress of Hair Research 2017. Scientific Program Committee

### 6) 一般発表

#### 6-1) 口頭発表

1. Kasuya A, Ito T, Tokura Y: M2 macrophages promote wound induced hair neogenesis through the production of growth factors. Society for Investigative Dermatology 75th Annual Meeting. 2016年5月. Scottsdale (United States of America)
2. Ito T, Suzuki T, Tokura Y: Similarities of dermoscopic and immunological findings in alopecia areata between human and C3H/HeJ mouse. Asia-Pacific Combined Dermatology Research Conference 2016. 2016年8月. Noosa (Australia)
3. Fukuchi K, Tatsuno K, Tokura Y: Increment of circulating plasmablasts upon reactivation of varicella zoster virus in patients with herpes zoster. Asia-Pacific Combined Dermatology Research Conference 2016. 2016年8月. Noosa (Australia)
4. Shimauchi T, Caucheteux S, Turpin J, Finsterbusch K, RM Bangham RM C, Tokura Y, Piguet V: Cell-to-cell contact with human T-lymphotropic virus type-1-infected T cells reduces dendritic cell immune functions and contributes to infection in trans. The 12th Meeting of the German-Japanese Society of Dermatology. 2016年10月. Karuizawa (Japan)
5. Kageyama H, Tatsuno T, Tokura Y, Yatagai T, Sakamoto K, Yoshimura K, Suzuki D: A case of multicentric reticulohistiocytosis treated with adalimumab and tocilizumab. The 12th Meeting of the German-Japanese Society of Dermatology. 2016年10月. Karuizawa (Japan)
6. Nakazawa S, Mori T, Niizeki H, Nakabayashi K, Tokura Y: Complete type of pachydermoperiostosis with a novel mutation c.510G>A of the SLC02A1 gene. The 4th Eastern Asia Dermatology Congress. 2016年11月. Maihama (Japan)
7. Umayahara T, Skabe J, Shimauchi T, Tokura Y: Galectin-7 is extracellularly released from epidermal keratinocytes in atopic dermatitis and serves as immunomodulator of Langerhans cells. The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. 2016年12月. Sendai (Japan)
8. Ito T, Suzuki T, Sakabe J, Funakoshi A, Fujiyama T, Tokura Y: Plasmacytoid dendritic cells is a possible key player for the initiation of alopecia areata in the C3H/HeJ mouse. The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. 2016年12月. Sendai (Japan)
9. Yatagai T, Yamaguchi H, Aoshima M, Ikeya S, Tatsuno K, Shimauchi T, Fujiyama T, Ito T, Tokura Y: Higher frequency of sensitive skin in extrinsic type of atopic dermatitis than intrinsic type as assessed by lactic acid stinging test. The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. 2016年12月. Sendai (Japan)
10. Fukuchi K, Tatsuno K, Shimauchi T, Tokura Y: IL-10 producing plasmablasts that increase at an acute phase of herpes zoster. The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. 2016年12月. Sendai (Japan)
11. Shimauchi T, Caucheteux S, Turpin J, Finsterbusch K, Bangham RM C, Tokura Y: Cell-to-cell contact with HTLV-1-infected T cells reduces dendritic cell immune functions and contributes to infection in trans. The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. 2016年12月. Sendai (Japan)
12. Fujiyama T, Ito T, Umayahara T, Tatsuno K, Ikeya S, Funakoshi A, Hashizume H, Tokura Y: Topical application of vitamin D3 analogue to psoriatic skin preferentially suppresses Th17 cells by both direct and indirect mechanisms. The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. 2016年12月. Sendai (Japan)

13. Shimauchi T, Caucheteux A, Turpin J, Finsterbusch, Tatsuno K, Bangham RM C, Tokura Y, Piguat V: Dendritic Cells Contribute to HTLV-1 Spread by Double Transfer via Cell-to-cell Contact with Infected and Target CD4+ T-cells. 18th International Conference on Human Retrovirology HTLV and Related Viruses. 2017年3月. Tokyo (Japan)

## 6-2)ポスター発表

1. Fujiyama T, Hashizume H, Umayahara T, Ito T, Tokura Y: Ex-Vivo Expanded Skin-Infiltrating T Cells From Severe Drug Eruptions Are Reactive With Causative Drugs: A Possible Novel Method For Determination Of Causative Drugs. 7th Drug Hypersensitivity Meeting 2016年4月. Malaga (Spain)

2. Fujiyama T, Hashizume H, Umayahara T, Ito T, Tokura Y: Novel lymphocyte stimulation tests using ex-vivo expanded skin-infiltrating T cells from severe drug eruptions. 46th Annual ESDR Meeting in 2016 2016年9月. Munich (Germany)

3. Ito T, Suzuki T, Fujiyama T, Tokura Y: Chemokine receptor CCR5 is the novel target for the treatment of alopecia areata. 46th Annual ESDR Meeting in 2016 2016年9月. Munich (Germany)

4. Shimauchi T, Caucheteux S, Turpin J, Finsterbusch K, Bangham CR, Tokura Y, Piguat V: Cell-to-cell contact with HTLV-1-infected T cells reduces dendritic cell immune functions and contributes to infection in trans. 46th Annual ESDR Meeting in 2016. 2016年9月. Munich (Germany)

5. Kageyama H, Shimauchi T, Tokura Y: Pseudolymphoma induced by both iodinated contrast media and amiodarone. The 4th Eastern Asia Dermatology Congress. 2016年11月. Maihama (Japan)

6. Tatsuno K, Shimauchi T, Tokura Y: Expression of CRTAM on CD8+ T Cells is Suppressed in HTLV-1 Infected Patients. 18th International Conference on Human Retrovirology HTLV and Related Viruses. 2017年3月. Tokyo (Japan)

## (2)国内学会の開催・参加

### 1)学会における特別講演・招待講演

1. 戸倉新樹: 内科実地診療での皮膚病変の見方. 日本内科学会東海支部主催第65階生涯教育講演会. 浜松市. 2016年6月

2. 戸倉新樹: 皮膚科医が知っておくべきIgG4関連疾患. 第80回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 横浜市. 2017年2月

3. 伊藤泰介: 円形脱毛症の病態解明と新規治療法開発の可能性. 第115回日本皮膚科学会総会 京都 2016年6月

### 2)シンポジウム発表

1. 戸倉新樹: 乾癬治療におけるビタミンD3とステロイド配合剤を考える. 第115回日本皮膚科学会静岡地方会(第2回日本皮膚科学会静岡講習会). 静岡市. 2016年5月

2. 戸倉新樹: アレルギーは皮膚からの感作で起こる. 第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会. 2016.5.21. 名古屋市. 2016年5月

3. 戸倉新樹: 乾癬の病態とIL-17産生細胞/樹状細胞と乾癬の病態. 第31回日本乾癬学会学術大会. 2016.9.2. 宇都宮市. 2016年9月

4. 戸倉新樹: 外用薬は尋常性乾癬を誘導するT細胞を抑制できるか? 第31回日本乾癬学会学術大会. 宇都宮市. 2016年9月

5. 戸倉新樹: アレルギーの性差. 第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会. 東京. 2016年11月

6. 戸倉新樹: 乾癬治療におけるビタミンD3とステロイド配合剤を考える. 日本皮膚科学会宮城地方会学術大会第376回例会. 仙台市. 2016年11月

7. 戸倉新樹: 乾癬治療におけるビタミンD3とステロイド配合剤を考える. 日本皮膚科学会第219回熊本地方会. 熊本市. 2016年12月

8. 戸倉新樹: Th17細胞をめぐる乾癬の病態と治療. 第93回日本皮膚科学会茨城地方会. つくば市. 2017年2月

9. 伊藤泰介: 治療選択におけるAGAの病態理解. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月

10. 伊藤泰介: 円形脱毛症の新たな展開. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016.10月

11. 藤山俊晴: メラノーマ特異的細胞障害性T細胞誘導方法の経験. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月

12. 島内隆寿: ヒトT細胞白血病ウイルス1型における樹状細胞を介したウイルス伝播様式. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月

13. 龍野一樹: ベキサロテンと皮膚T細胞リンパ腫: 国内臨床試験と自験例からみた臨床効果. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月

14. 池谷茂樹, 山口隼人, 山田尚弘, 登根純子, 戸倉新樹: ポリコナゾールによる光線性皮膚癌. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月

15. 池谷茂樹: 活性型ビタミンD3の作用機序から考える乾癬治療~浜松医大での最近の研究を含めて~. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月

### 3)座長をした学会名

1. 戸倉新樹: 濱田利久: 第32回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 鹿児島市. 2016年5月

2. 戸倉新樹: 第115回日本皮膚科学会総会. 京都市. 2016年6月

3. 戸倉新樹: 阿部理一郎: 第115回日本皮膚科学会総会. 京都市. 2016年6月

4. 戸倉新樹: 第38回日本光医学・光生物学会 京都市. 2016年7月

5. 戸倉新樹, 乃木田俊辰: 第34回日本美容皮膚科学会総会・学術大会. 東京. 2016年8月

6. 戸倉新樹: 第116回日本皮膚科学会静岡地方会(第3回日本皮膚科学会静岡講習会). 三島市. 2016年9月

7. 戸倉新樹: 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月

8. 岩月啓氏, Kwang Hyun Cho, 戸倉新樹: 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月

9.	戸倉新樹:第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月
10.	戸倉新樹:第80回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 横浜市. 2017年2月
11.	戸倉新樹:第117回日本皮膚科学会静岡地方会(第4回日本皮膚科学会静岡講習会). 浜松市. 2017年3月
12.	大山大, 伊藤泰介:第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月
13.	波多野豊, 伊藤泰介:第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会. 東京. 2016年11月
14.	横山知明, 藤山俊晴:第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月
15.	河井一浩, 島内隆寿:第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月
16.	池谷茂樹:第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月

#### 4)主催した学会名

1.	戸倉新樹:会長. 第115回日本皮膚科学会静岡地方会(第2回日本皮膚科学会静岡講習会). 静岡市. 2016年5月. 80名
2.	戸倉新樹:会長. 第116回日本皮膚科学会静岡地方会(第3回日本皮膚科学会静岡講習会). 三島市. 2016年9月. 80名
3.	戸倉新樹:会長. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月. 900名
4.	戸倉新樹:顧問. 第17回浜名湖皮膚病理研究会. 浜松市. 2017年2月. 60名
5.	戸倉新樹:会長. 第117回日本皮膚科学会静岡地方会(第4回日本皮膚科学会静岡講習会). 浜松市. 2017年3月. 80名
6.	伊藤泰介:事務局長. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松市. 2016年10月. 900名
7.	伊藤泰介:世話人. 第24回毛髪科学研究会. 北九州市. 2016年12月. 100名
8.	藤山俊晴:事務局長. 第17回浜名湖皮膚病理研究会. 浜松市. 2017年2月. 60名

#### 5)役職についている国内学会名とその役割

1.	戸倉新樹:日本皮膚科学会 理事
2.	戸倉新樹:日本研究皮膚科学会 理事
3.	戸倉新樹:日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 副理事長
4.	戸倉新樹:日本皮膚悪性腫瘍学会 理事
5.	戸倉新樹:日本アレルギー学会 代議員
6.	戸倉新樹:日本光医学・光生物学会 理事
7.	戸倉新樹:太陽紫外線防御研究委員会 理事
8.	戸倉新樹:日本乾癬学会 評議員
9.	戸倉新樹:日本美容皮膚科学会 代議員
10.	戸倉新樹:日本HTLV-1学会 評議員
11.	伊藤泰介:日本皮膚科学会 代議員
12.	伊藤泰介:日本研究皮膚科学会 評議員
13.	伊藤泰介:日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 評議員
14.	伊藤泰介:毛髪科学研究会 世話人
15.	藤山俊晴:日本研究皮膚科学会 評議員
16.	島内隆寿:日本研究皮膚科学会 評議員

### 8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	2件	1件

#### (1)外国の学術雑誌の編集

1.	戸倉新樹:Experimental Dermatology. Editorial Board. PubMed/Medline 登録有. IF 2.675
2.	戸倉新樹:Dermatologica Sinica. International Board. PubMed/Medline 登録有. IF 0.494

#### (2)国内の英文雑誌等の編集

1.	戸倉新樹:Journal of Dermatological Science(日本研究皮膚科学会). 編集委員長(Editor-in-Chief). PubMed/Medline登録有. IF 3.739
----	--

#### (3)国内外の英文雑誌のレフリー

1.	戸倉新樹:Journal of Allergy and Clinical Immunology 2回
2.	戸倉新樹:Journal of Investigative Dermatology 2回
3.	戸倉新樹:British Journal of Dermatology 4回
4.	戸倉新樹:Journal of Dermatological Science 約600回/編集長のため
5.	戸倉新樹:Experimental Dermatology 2回
6.	戸倉新樹:Acta Derma Venereol 3回
7.	戸倉新樹:Journal of the European Academy of Dermatology and Venerology 1回
8.	戸倉新樹:European Journal of Dermatology 2回

9.	戸倉新樹: The Journal of Dermatology 10回
10.	戸倉新樹: Journal of European Academy of Dermatology and Venereology 1回
11.	伊藤泰介: Journal of Dermatology 11回
12.	伊藤泰介: Soudi Medical Journal 1回
13.	伊藤泰介: Expert Opinion On Pharmacotherapy 1回
14.	伊藤泰介: Journal of European Academy of Dermatology Venereology 3回
15.	伊藤泰介: Allergology International 2回
11.	伊藤泰介: British Journal of Medicine and Medical Research 1回
12.	伊藤泰介: Experimental Dermatology 4回
13.	伊藤泰介: British Journal of Medicine and Medical Research 1回
14.	伊藤泰介: Journal of Dermatological Science 5回
15.	伊藤泰介: British Journal of Dermatology 2回
16.	伊藤泰介: International Journal of Dermatology 1回
17.	伊藤泰介: Dove Press 1回
18.	伊藤泰介: European Journal of Dermatology 1回
19.	伊藤泰介: Dermatologica Sinica 1回
20.	伊藤泰介: Current Clinical Pharmacology 1回
21.	伊藤泰介: Congenital Anomalies 1回
22.	藤山俊晴: Journal of dermatological science 6回
23.	藤山俊晴: Journal of Investigative dermatology 2回
24.	藤山俊晴: Journal of dermatology 2回
25.	島内隆寿: Journal of Dermatology 2回
26.	島内隆寿: Journal of Dermatological Science 7回
27.	池谷茂樹: Journal of Dermatological Science 2回
28.	龍野一樹: Allergy 1回
29.	龍野一樹: Journal of Dermatological Science 2回
30.	青島正浩: Journal of Dermatological Science 1回

## 9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	2 件
(3) 学内共同研究	0 件

## 10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	4 件

## 11 受賞

### (1) 国際的な授賞

- 戸倉新樹: Professor Lu Yau-Chin Memorial Lectureship. 台湾皮膚科学会. 台湾

### (2) 外国からの授与

- 戸倉新樹: ドイツ皮膚科学会名誉会員. ドイツ皮膚科学会. ドイツ

### (3) 国内での授賞

- 龍野一樹: 第21回浜松医科大学同窓会松門会学術奨励賞. 2016年6月
- 池谷茂樹: 第38回日本光生物学会・光生物学会奨励賞. 2016年7月

## 12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

- 戸倉新樹: 県予算 現場から/5. 医師不足 県内就業後押し. 讀賣新聞. 2017.2.19
- 伊藤泰介: AGAとは? メディカルノート. 2016.6
- 伊藤泰介: 紫外線アレルギー. 報道ステーション(テレビ朝日). 2016.5.12
- 藤山俊晴: 診察室. 静岡新聞. 2016.4.25
- 藤山俊晴: 紙上診察室. 中日新聞. 2016.12.13
- 龍野一樹: 診察室/繰り返す顔の湿疹. 静岡新聞. 2016.4.6

### 13 その他の業績

1.	国内学会の発表／鈴木裕乃, 青島正浩, 戸倉新樹: 急性骨髄性白血病の発症に先行した正円形靴癬疹. 第115回日本皮膚科学会静岡地方会(第2回日本皮膚科学会静岡講習会). 2016年5月. 静岡市
2.	国内学会の発表／福地健祐, 佐野友佑, 糟谷啓, 青島正浩, 龍野一樹, 戸倉新樹: ニボルマブ加療後に肺サルコイド様反応と広範囲白斑が出現した進行期食道原発悪性黒色腫. 第32回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 2016年5月. 鹿児島市
3.	国内学会の発表／池谷茂樹, 栗山幸子, 青島正浩, 龍野一樹, 藤山俊晴, 戸倉新樹, 西本幸司: Vemurafenib奏功中にNivolumabへと切り替えて維持を試みた悪性黒色腫の1例. 第32回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 2016年5月. 鹿児島市
4.	国内学会の発表／龍野一樹, 福地健祐, 佐野友佑, 栗山幸子, 青島正浩, 戸倉新樹: 抗CCR4抗体療法中に出現した光線過敏症. 第32回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 2016年5月. 鹿児島市
5.	国内学会の発表／Shimauchi T: Role of dendritic cells in HTLV-1 transmission. 第115回日本皮膚科学会総会. 2016年6月. 京都市
6.	国内学会の発表／Tatsuno K, Fujiyama T, Yamaguchi H, Tokura Y: Direct interaction of TSLP with CD4+ T cell in atopic dermatitis. 第115回日本皮膚科学会総会. 2016年6月. 京都市
7.	国内学会の発表／福地健祐, 龍野一樹, 伊藤泰介, 戸倉新樹, 久保亮治: 家族性黒色表皮腫. 第115回日本皮膚科学会総会. 2016年6月. 京都市
8.	国内学会の発表／佐野友佑, 龍野一樹, 福地健祐, 糟谷啓, 大石敏弘, 藤山俊晴, 伊藤泰介, 戸倉新樹: ニボルマブ加療中に1型糖尿病を発症した悪性黒色腫の症例. 第115回日本皮膚科学会総会. 2016年6月. 京都市
9.	国内学会の発表／影山葉月, 矢田貝剛, 坂本慶子, 鈴木大介, 吉村克洋, 戸倉新樹: 多中心性細網組織球症(Multicentric reticulohistiocytosis)に生物学的製剤治療が有用であった1例. 第115回日本皮膚科学会総会. 2016年6月. 京都市
10.	国内学会の発表／Fujiyama T, Hashizume H, Umayahara T, Ito T, Tokura Y: A novel method to determine causative drugs using ex-vivo expanded skin-infiltrating T cells from severe drug eruptions. 第65回日本アレルギー学会学術大会. 2016年6月. 東京
11.	国内学会の発表／池谷茂樹, 山口隼人, 山田尚広, 戸倉新樹: 抗真菌剤ポリコナゾール投与中に生じた光線角化症とその発症機序の検討. 第38回日本光医学・光生物学会. 2016年7月. 京都市
12.	国内学会の発表／島内隆寿, (戸倉新樹): バイオフィルム様細胞外ウイルス集合体による樹状細胞へのHTLV-1伝播とその機能抑制. 第3回日本HTLV-1学会学術集会. 2016年8月. 鹿児島市
13.	国内学会の発表／池谷茂樹, 藤山俊晴, 馬屋原孝恒, 龍野一樹, 佐野悠子, 八木宏明, 戸倉新樹: 乾癬患者におけるセクキヌマブの臨床効果とそれに伴う血中T細胞サブセットと血清乾癬関連因子変動の検討. 第31回日本乾癬学会学術大会. 2016年9月. 宇都宮市
14.	国内学会の発表／馬屋原孝恒, 池谷茂樹, 河野雅人, 戸倉新樹: インフリキシマブ治療中に潜在性結核感染症併発するもセクキヌマブへの切り替えができた関節症性乾癬の1例. 第31回日本乾癬学会学術大会. 2016年9月. 宇都宮市
15.	国内学会の発表／岩田和子, 影山葉月, 池谷茂樹, 樋川美帆, 戸倉新樹, 山崎哲, 鈴木英年: 肝機能障害を伴った早期梅毒の1例. 第116回日本皮膚科学会静岡地方会(第3回日本皮膚科学会静岡講習会). 2016年9月. 三島市
16.	国内学会の発表／福地健祐, 戸倉新樹: 皮疹を契機に診断へと至ったSplenic marginal zone lymphoma (SMZL). 第116回日本皮膚科学会静岡地方会(第3回日本皮膚科学会静岡講習会). 2016年9月. 三島市
17.	国内学会の発表／青島正浩, 池谷茂樹, 龍野一樹, 島内隆寿, 藤山俊晴, 伊藤泰介, 戸倉新樹, 津嶋友央: 私の経験したpalisaded neutrophilic and granulomatous dermatitis (PNGD). 第116回日本皮膚科学会静岡地方会(第3回日本皮膚科学会静岡講習会). 2016年9月. 三島市
18.	国内学会の発表／池谷茂樹, 栗山幸子, 兼子泰一, 糟谷啓, 青島正浩, 藤山俊晴, 伊藤泰介, 戸倉新樹, 鈴木倫子: スルファジアジン銀クリームにて誘発されたIgA血管炎の1例. 第116回日本皮膚科学会静岡地方会(第3回日本皮膚科学会静岡講習会). 2016年9月. 三島市
19.	国内学会の発表／森ナオミ, 藤山俊晴, 伊藤泰介, 戸倉新樹: びまん性大細胞型リンパ腫に合併した汎発型環状肉芽腫症の1例. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2016年10月. 浜松市
20.	国内学会の発表／影山葉月, 戸倉新樹: ヨード系造影剤とアミオダロン塩酸塩の双方により生じたcutaneous pseudolymphomaの1例. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2016年10月. 浜松市
21.	国内学会の発表／矢田貝剛, 坂本慶子: 薬剤性腸炎を伴った、ヒドロクロロチアジド配合降圧薬による光線過敏型薬疹の1例. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2016年10月. 浜松市
22.	国内学会の発表／鈴木裕乃, 青島正浩, 龍野一樹, 戸倉新樹: ポリノスタットが奏功した抗HTLV-抗体陽性の皮膚T細胞リンパ腫. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2016年10月. 浜松市
23.	国内学会の発表／岩田和子, 池谷茂樹, 兼子泰一, 福地健祐, 龍野一樹, 島内隆寿, 小野孝明, 戸倉新樹: シクロフォスファミド+ブレドニゾロン療法が有効であった節外性辺縁帯リンパ腫の高齢者例. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2016年10月. 浜松市
24.	国内学会の発表／中澤慎介, 笹田久美子, 森達吉, 西江渉, 戸倉新樹: DPP-4阻害薬内服中に生じた水疱性類天疱瘡. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2016年10月. 浜松市
25.	国内学会の発表／樋川美帆, 龍野一樹, 鈴木裕乃, 青島正浩, 小松哲也, 小西憲太, 中村和正, 戸倉新樹: 強度変調放射線治療(IMRT)で治療した頭部血管肉腫の3例. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2016年10月. 浜松市
26.	国内学会の発表／影山葉月, 戸倉新樹: 生検後に消退傾向を示した母趾伸側reactive angioendotheliomatosisの1例. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2016年10月. 浜松市
27.	国内学会の発表／藤山俊晴, 青島正浩, 鈴木裕乃, 橋爪秀夫, 戸倉新樹: 皮膚湿潤T細胞を用いたELISpot法で原因薬剤同定を試みたSJS/TEN. 第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会. 2016年11月. 東京
28.	国内学会の発表／馬屋原孝恒, 戸倉新樹, 伊藤泰介, 田嶋瑞帆: 手掌部に限局する緊満性水疱を呈したBullous Amyloidosisの1例. 第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会. 2016年11月. 東京

29. 国内学会の発表／影山葉月, 戸倉新樹, 矢田貝剛, 坂本慶子, 古谷隆一: 重症落葉状天疱瘡の血漿交換治療中にアナフィラキシーを生じた1例. 第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会. 2016年11月. 東京
30. 国内学会の発表／青島正浩, 藤山俊晴, 伊藤泰介, 戸倉新樹: アピキサバンが誘因と考えられた円形脱毛症. 第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会. 2016年11月. 東京
31. 国内学会の発表／伊藤泰介, 小粥雅明, 坂部純一, 戸倉新樹, 下村裕: 本邦第1例目のマリーウンナ乏毛症の経過. 第24回毛髪科学研究会. 2016年12月. 北九州市
32. 国内学会の発表／鈴木裕乃, 青島正浩, 池谷茂樹, 龍野一樹, 島内隆寿, 藤山俊晴, 伊藤泰介, 戸倉新樹: 網目状の紅斑を呈したcutaneous eosinophilic vasculitis. 第40回皮膚脈管・膠原病研究会. 2017年1月. 福島市
33. 国内学会の発表／樋川美帆, 龍野一樹, 岩田和子, 鈴木裕乃, 青島正浩, 池谷茂樹, 島内隆寿, 藤山俊晴, 伊藤泰介, 瀧口徹也, 戸倉新樹: ダブラフェニブ/トラメチニブ併用療法で加療中の悪性黒色腫患者にみられた結節性紅斑様皮疹. 第80回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 2017年2月. 横浜市
34. 国内学会の発表／鈴木裕乃, 青島正浩, 馬屋原孝恒, 池谷茂樹, 龍野一樹, 島内隆寿, 藤山俊晴, 伊藤泰介, 戸倉新樹: インフリキシマブ投与中にニューモシスチス肺炎を発症したRF高値の関節症性乾癬. 第80回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 2017年2月. 横浜市
35. 国内学会の発表／影山葉月, 戸倉新樹: 前胸部大胸筋内に生じたinfiltrating type intramuscular lipomaの1例. 第80回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 2017年2月. 横浜市
36. 国内学会の発表／岩田和子, 増田百合香, 樋川美帆, 池谷茂樹, 戸倉新樹: 浴槽の蓋に含有された抗菌剤(TCMSP)によるアレルギー性接触性皮膚炎の1例. 第117回日本皮膚科学会静岡地方会(第4回日本皮膚科学会静岡講習会). 2017年3月. 浜松市
37. 国内学会の発表／青島正浩, 池谷茂樹, 龍野一樹, 島内隆寿, 藤山俊晴, 伊藤泰介, 戸倉新樹: 皮膚潰瘍を呈する疾患の診断ポイント. 第117回日本皮膚科学会静岡地方会(第4回日本皮膚科学会静岡講習会). 2017年3月. 浜松市
38. 国内学会の発表／戸倉新樹: B型肝炎ワクチン接種後に生じたGianotti-Crosti症候群. 第460回日本皮膚科学会大阪地方会. 2017年3月. 和歌山市